

ECBは8会合ぶりに政策金利を据え置き、様子見姿勢を強める

- ECBは8会合ぶりに、政策金利の据え置きを決定
- 先行き不透明感を強調し、ECBは様子見姿勢を強める
- 貿易政策・為替動向を注視し、追加利下げの要否を見極める展開へ

■ ECBは8会合ぶりに政策金利を据え置き

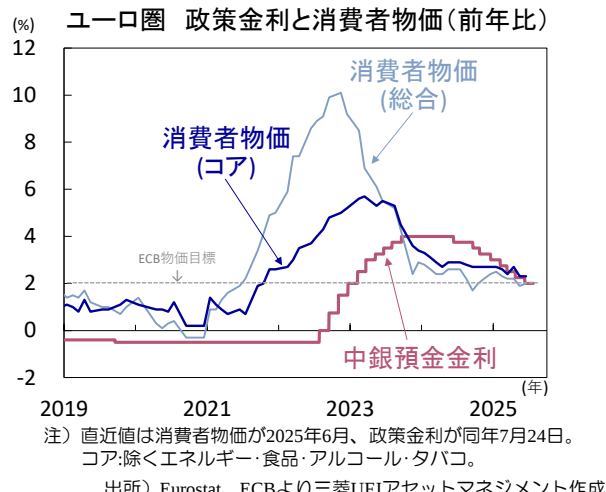
欧州中央銀行(ECB)は24日、事前予想の通り、8会合ぶりに主要政策金利の据え置きを決定し、中銀預金金利を2.0%で維持しました(図1)。声明文では、インフレは現在中期物価目標の2%で推移し、インフレ圧力の緩和や賃金上昇率の鈍化は続いていると指摘。インフレ見通しに対する評価は前回6月会合と概ね一致しているとしました。また、世界的に厳しい環境の中でも、経済は総じて底堅さを保っていると評価。物価・景気動向が安定的に推移し、米国と欧州連合(EU)の貿易交渉が大詰めを迎える中、金融政策の据え置きが適切と判断した模様です。

■ 様子見姿勢を強めるECB、追加利下げの要否を見極める展開が継続へ

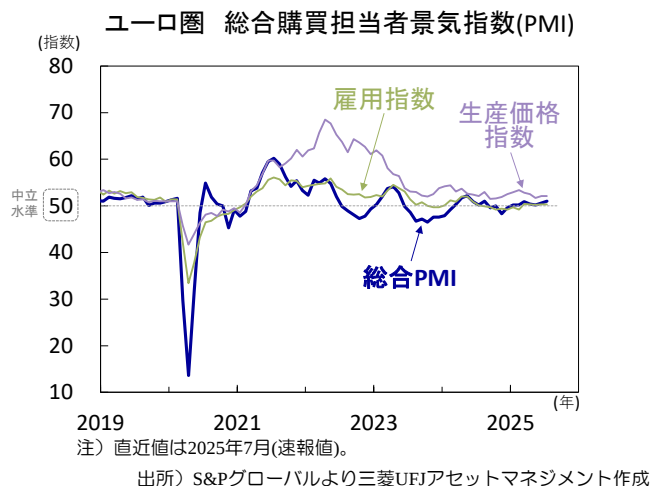
先行きの政策判断を巡っては、不確実性が根強い中、新たな手がかりは示されず、ECBはデータ次第で政策理事会毎に判断する方針を堅持。ラガルドECB総裁は記者会見で、貿易摩擦の影響で不透明感が依然として高いと強調し、インフレ率が物価目標の2%まで減速した今は、今後数カ月間の物価・経済動向を巡るリスクの展開を見極める余裕はあるとの考えを示しました。また、同日に公表されたユーロ圏の7月総合購買担当者景気指数(PMI、速報値)は51.0と、事前予想を上回って改善し(図2)、7-9月期にかけて、ユーロ圏景気がECBの6月見通しを上回る可能性を示唆。景気下振れリスクへの懸念が和らぎ、貿易政策による影響が見極め難い中、ECBが次回9月政策理事会でも、様子見姿勢を保つ可能性が高まっています。

しかし、ディスインフレ圧力への懸念は依然くすぶります。足元の報道通りに、米国による相互関税・自動車関税率を15%とすることで米EUが合意に至れば、景気・物価への下押し圧力の強まりは抑制されるものの、関税賦課による実体経済への下押し懸念や、最終合意がより悪い結果となる可能性は残ります。加えて、米利下げ観測等を背景に、ユーロ高基調の継続(図3)によるインフレ下押し圧力も意識されます。短期金融市場では、年内の利下げ期待は後退しつつも、未だ5割程度の確率で0.25%ptの追加利下げを見込み、貿易政策・為替相場の動向から、利下げの要否を見極める展開が続きます。 (吉永)

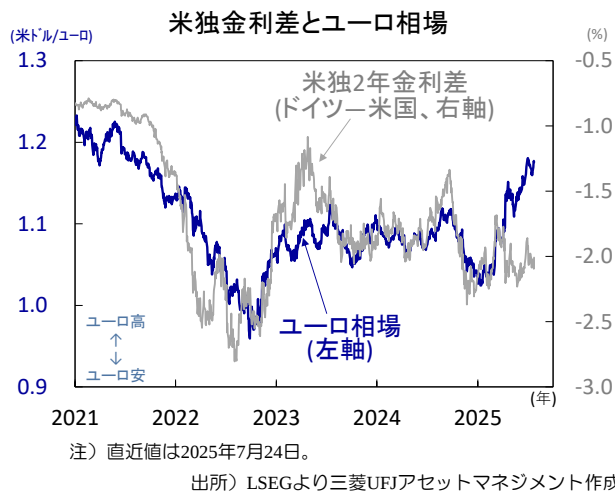
【図1】 ECBは8会合ぶりに追加利下げを見送り、不確実性が根強い中、様子見姿勢へ



【図2】 不確実性が強い下でも、ユーロ圏景気は底堅さを維持



【図3】 米利下げ期待や欧州投資家の資金還流等を背景に、ユーロ高は進み、インフレ下押し圧力に懸念



本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJアセットマネジメント ストラテジック・リサーチ部リサーチグループの見解です。また、三菱UFJアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会